

わんぱく学園ニュース

平成21年 7～9月号 No143

背丈は10～80センチに達し、5つの花びらをもつ青紫色の花…そう桔梗(ききょう)の花が咲く頃…。澄んだ真っ青の空にふさわしく美しい花——。「むらさきの、衣(ころも)紡(つか)ぎし、ききょうかな」～垣

島根大学教育学部教授、原広治先生は長年障害児教育に貢献され、教育の中に福祉の観点をとり入れた実践を展開なされていらっしゃる方です。

出会い、ふれあい、つなぎ、紡ぐ。

人と地域の結晶体

教育学部附属FD戦略センター 教授 原 広 治

平成21年6月9日、NPO法人サポートセンター「どりーむ」がスタートした。まずは開設にあたり祝意を表するとともに、これまで途切れることなく歩み続けてこられた関係する皆様のご努力に敬意を表したい。この日、設立総会の会場は、いつもどおりの柔らかで温かい空気に包まれていた。これまでの永きにわたる活動に参加された方々のお一人お一人によって、この雰囲気が出されているのだろうと思ったのが、会場での第一印象である。

この春から、私は大学で勤務することになった。慣れない環境でのスタートは、紙一枚手にするにも、電話一つかけるにも、自分だけではどうにもならず、常に人に尋ね続けなければならない毎日だった。まして、これから始まる仕事などわかるはずもない。かって、学生として過ごした大学であったとしても、そこでの先生方の仕事の中身たるや想像できない未知なるものであった。

しかし、そのような中であっても、今日までの自分の歴史の中で積み上げてきた「何か」を使いながら、新天地での新たな業務を行おうとする私がいた。つまり、新たな業務を遂行するために必要と思われる新たな何かを得てから行うのではなく、すでに我が身にある何かを駆使しながら、自分らしく進めていくほかはない。換言すれば、何かを行おうとするときには、新たな何かを習得しなければできないので

はなく、既存の何かを使えることが有用であることになる。

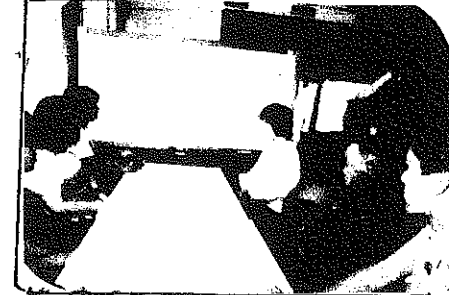
このことを教えてくださったのは、故飯塚真澄先生をはじめ、私がこれまでおつきあいさせていただいた多くの先輩諸氏であった。

私たちはできにくいことがあると何故かそれが気になり、そこに注目し、その改善を図るために新たな「何か(=能力)」を得ようとする。他者と比較して「できるーできない」を確認し、できないことを見つけると、少しでも早くできるようにしていこうとするのは当然であるかのような感覚がある。しかし、一方で、本当に大事にすべきは、今「ない」ものの獲得をめざし、できるために何かを習得することではなく、獲得や習得は結果であると受け止め、行うべきは、今「ある」ものを確認しそれらを使おうとする営みではないかという気がしてならない。

サポートセンター「どりーむ」が、そのような文化の発信ステーションであり続けることを期待し、これからも、人や地域と出会い、ふれあい、人や地域をつなぎ、結び、紡いでいく活動が展開されていくことを願ってやまない。

★レポート：長岡真弓(三葉園)

◆ひらたCATV見学したよ!

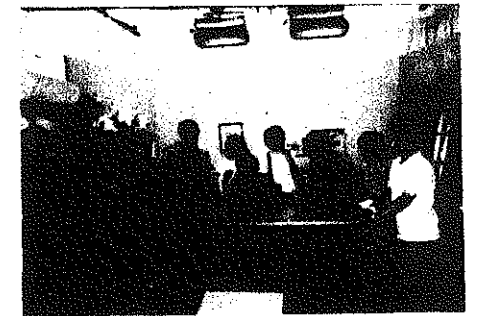


6/14(日)わがところTV局へ9名で見学に行った。制作スタッフの方やアナウンサーの森田さんの説明があり、驚いた事が色々あった。まず機械が沢山あった事。音を調整したり、真夜中に流れるのは、コンピューターで自動的に流れる機械がある事。スタジオの中

は、壁がデコボコになっていて、音が外にもれないように工夫してあった。

番組を作る人、カメラやマイクを持って取材に出掛ける人、映像に文字を入れる人、ニュースを読む人いろいろな仕事があるなあ。こうやってテレビ番組をつくるなんて、大変な仕事だと思った。

2005年7月1日に開局し、この7月で丸4年になるんだって!。



わがところテレビスタジオにて